

# 中学宇宙部 第三十五回大会 第三位

▼少し前に、囲碁や将棋がニューズや多くの記事で注目を集めていたのは憶えているだろうか。藤井名人が将棋で話題を作ったことなどをきっかけに囲碁や将棋を始めた人もいたのではないかと。▼先日、囲碁界において、芝野虎丸名人が史上最年少名人特別紙上認定を受けたそう。私も小学生まで囲碁を習うため、塾に通ったが、囲碁は本当に難しいものである。▼囲碁のルールにおいては、一見形が似ているオセロとは、ルールの違いがはつきりとしている。黒と白の石を盤に打っていき、自分の色の石が囲っている面積の大きさを競い合うのだが、当然相手も同じことを考えながら、攻防を繰り返すため、試行錯誤しながら一手一手打っていく競技である。▼実際に囲碁を打ってみると実感できるのだが、一手置くまでの時間が非常に長いのである。「どのようしたら自分にとって不利な状況になるか、自分の欠点はどこなのだろうか、大事なことを忘れていないか。」など、その状況にあった最善の手を打つため、度々多くのことを頭で考え、自問自答を繰り返すからである。▼しかし、反対に何も考えずに油断して形勢逆転されてしまい、後悔して「あのようなら」としなれば良かった」ということもあり得るのである。▼こういった囲碁という競技において、楠隼での寮生活や学校生活にでもあてはまるのではないだろうか。今年最後にあたる、二学期期末考査も終わり、寮の中では、冬休みやクリスマスなどのビッグイベントなどの影響で生徒一人一人のテンションが高まっていると感じている。その中で落ち着きがない生徒もいるが、皆で注意を払い、より良い寮生活を作っていきたい。

▼その中で三学期にある学力推移調査や学年末考査、検定などに向けてしっかりと努力してほしい。▼高校三年生が大学受験を控えているからと気遣い、声量やスピーチ力などの音量に注意がけられているだろうか。▼「待った」という言葉は、皆さんも囲碁や将棋の一度は耳にしたことがあるのではないだろうか。「待った。」と言わなければならぬ、取り返しのつかないことにならないよう、今できる最善のことを日々実践しているのかを、自問自答してほしい。

「すごい、信じられない。」夕方十七時、日が暮れて暗くなった。表彰式で、複数の表彰状、総合優勝の特製トロフィーを持った生徒はそう話した。

十月十九日、茨城県つくば市のつくば宇宙センターでモデルロケットの全国大会が行われた。楠隼宇宙部の参加は四回目。前回には先輩方がロッキード・マーティン賞を獲得しており、今回も賞を勝ち取るという狙いである。

今回、本大会で優勝したのは楠隼B3チーム。メンバーは中学三年生の山内、永野、府後だ。特に定着地競技では、優秀な成績を残していた。

定着地競技とは、今回からフォーマットが変更された競技で、持ち前の勘や経験が試されるという。というのも、使える機体は、「α(アルファ)3」という機体のみで、ほとんどの部位の改造・変更が認められておらず、参加者は同じ機体を使わなければならないからだ。それ故に、使えるのは持ち前の勘や経験が重要

になる訳だ。

そして、この競技で出した結果は「七センチ」。この記録により、楠隼B3は一気に大活躍を遂げた。この「七センチ」とは、定着からの距離を示している。ロケット自体、およそ七〇メートル飛ぶため、空から直接定着点に向かわせるのは、非常に難しい。それを定着の直前に落とせることが評価点に大きく関わった。この「七センチ」によって、多くの賞を獲得できたともいえる。

結果、定着地競技優勝(団体)、競技総合第三位、ロッキード・マーティン奨励賞などの四つの賞を獲得した。

同賞の獲得に大きく貢献した、永野義昌さんは、「ただ純粹にうれしかった。機体を丁寧に作り上げたことや、今まで培った経験が大きく関わったと思う。」と語る。部長の末吉陽さんも「部長としても、楠隼生としても、楠隼の名が全国に広まったことは誇らしい。来年からは部長の後輩に引き継ぐことになるが、『強豪』として、楠隼の名が全国に

轟くことを願っている。」と語った。また、部顧問の西丸松美先生はこうコメントした。「彼らが全国大会で複数の賞を勝ち取ったのは非常に嬉しかった。生徒たち自身でやるべきことを考え、知恵を出し、指摘し合ってよい良いロケットを作ってきた。彼らが不断の努力を続けてきた結果といえる。」

今、楠隼の部活動では多くの中学三



(上) 実際にロケットを飛ばして実験を行っている様子

年生が引退を迎えている。部長も代替わり、新しく変化する部活も多いだろう。中学三年生がどのようにして部活動を運営していたか、今までの体制で行っていたのはなぜか、など、先輩や先生の知恵などを参考に、よりよい部活へと進化してほしい。

〈協力者：中井〉  
〈責任：梅木〉



(上) ロケットの不具合などを調節している様子

## おにぎり会

### 寮行事

十一月の期末考査に向けて、生徒たちがテスト対策に終われ、緊張感が増す寮の中で、学習時間の一限目と二限目の一〇分の休み時間に楠隼ホールにておにぎり会が行われました。保護者の方々が期末考査前のテスト対策学習に励んでいる生徒に、おにぎり、フランクフルト、お茶、カルピスなどの飲み物や食べ物を持って下さいました。この寮行事は生徒からは好評で、学習時間が終わるとすぐに、部屋から急いで出て楠隼ホールへ向かう生徒が多く伺え、競走のようになっています。今回の保護者のご厚意に感謝しましょう。

〈白川〉



(左) おいしそうなおにぎりトランプフランクフルトを保護者の方々が生徒に渡している様子です。

## 【編集後記】

今回で四回目の生徒会新聞「槐魂」が発行できたことをとても嬉しく思っています。さて、もう年末となりました。この令和元年、悔いはないでしょうか。年が変わるまでの少しの間、勉強の復習などをしっかりして来年良いスタートが切れるようにしましょう。また私は中学広報委員長としての反省は、生徒会新聞の提出期限をなかなか守れなかった他に、少し勉学を疎かにしてしまっただけの反省があります。来年は広報部の仕事と勉学の両道を目指し、日々悔いのない生活を送っていきたくて考えています。これからの広報部の更なる発展に期待ください。

令和元年度九月生徒会新聞 発行責任者 梅木岳人